

『イラストでわかる日本語表現 中級[改訂版]』

教師用授業のヒント

【1 通常の使い方】 (Lesson 1 「～あげく (に)」を例にしています)

1 「例文」の導入

例文とイラストを同時に見せて確認する。

教師がイラストの上にある例文を読み、学習者にリピートさせる。その際、イラストを見せながら例文を理解させることで例文の意味をより正確に理解させる。

2 「表現」の導入

教師が表現「～あげく (に)」を導入する (ここで**3**、**4**を先に行ってもよい)。

3 「意味」の確認

イラストの下にある「意味」を教師または学習者が読み、確認 (「意味」は学習者に音読させなくてもよい)。

4 「接続・注意点」の確認

意味の下にある「接続・注意点」を教師または学習者が読み、確認 (「接続・注意点」も学習者に音読させなくてもよい)。

5 「他の例文」で確認

「接続・注意点」の下の「他の例文」を教師または学習者が読み、確認 (教師が読み、学習者にリピートさせてもよいし、適宜学習者を当てて順番に読ませてもよい)。

さらに他の例文を学習者に考えさせる。ノートに書かせて、発表させるという手順を踏むとなおよいが、時間のないときは口頭発表のみでもよい。

6 「イラスト」で復習

最後に、「～あげく (に)」の「イラスト」のみを見せて、正しい例文が頭に浮かぶかどうか確認させる。

【表 1 1Lesson の時間の割り振り】(1Lesson の学習に要する時間:約 15~20 分)

	項目	かかる時間	内容
1	「例文」の導入	約 5 分	「イラスト」「例文の翻訳」を用いながら、音読させるなどして、「例文」を導入・理解させる。
2	「表現」の導入		「表現」を導入する。
3	「意味」の確認		「意味」を確認する。
4	「接続・注意点」の確認	約 3 分	「接続」「使い方の注意点」を確認する。
5	「他の例文」で確認	約 10 分	「他の例文」、教師が用意した例文、類似した表現の例文などで確認する。学習者にも文を作らせ、定着させる。
6	「イラスト」で確認		「イラスト」だけを見せ、文を想起させる。

7 練習問題、まとめの練習問題で確認

いくつか「表現」の学習を進めると（4~5課ごと）、それまでに習ったことの確認問題として「練習問題」「まとめの練習問題」のページがある（本書全体で34の「練習問題」、8つの「まとめの練習問題」のページがある）。

まず、「練習問題」を解かせることによって、どれくらい学習者に各「表現」が定着しているかを知ることができる。ここで解けなかった問題については、それぞれの「表現」のページに戻り、再度意味の確認を行う。その際に「例文」と「イラスト」を同時に用いると効果的である。

いくつか「練習問題」を終えると、さらなる復習に役立つまとめ問題がある（「まとめ問題」は、問題形式もさらにバリエーションを持たせてある）。学習者が理解できていない「表現」、弱点を確認し、必要なら該当の「表現」に戻り復習させる。

【2 試験直前などで急いで表現を定着させたい場合の本書の使い方】

1

まず、「まとめの練習問題」（ある程度時間に余裕がある場合は「練習問題」も）を解かせる。

2

できなかった問題の「表現」のみを取り出し、各「表現」のページにおいて例文と「イラスト」を用いて意味を確認、定着させる。

3

再度「まとめの練習問題」（もしくは「練習問題」も含めて）を解かせ、どれくらいできるようになったかを確認する。

4

1～3を繰り返す。

*この方法で学習する場合、学習者のレベルにもよるが、8～42日ほどで本書を学習することも可能である。表2、表3を参照。

* [表3・42日間で学習する場合] は、1週間に1時間だけ教え、かつ1年以内に本書を終えたい場合などにも適用できる。

[表2 8日間で学習する場合]

	まとめ問題	該当 Lesson(必要な場合のみ戻って学習)
1日目	1	1～25
2日目	2	26～58
3日目	3	59～73
4日目	4	74～96
5日目	5	97～126
6日目	6	127～145
7日目	7	146～166
8日目	8	167～181

[表3 42日間で学習する場合]

	練習問題	該当 Lesson(必要な場合のみ戻って学習)
1日目	1	1～5
2日目	2	6～9
3日目	3	10～13
4日目	4	14～18
5日目	5	19～25
6日目	まとめ問題 1	1～25
7日目	6	26～32
8日目	7	33～38
9日目	8	39～43
10日目	9	44～49
11日目	10	50～53
12日目	11	54～58

13 日目	まとめ問題 2	26～58
14 日目	12	59～66
15 日目	13	67～73
16 日目	まとめ問題 3	59～73
17 日目	14	74～77
18 日目	15	78～83
19 日目	16	84～87
20 日目	17	88～91
21 日目	18	92～96
22 日目	まとめ問題 4	74～96
23 日目	19	97～100
24 日目	20	101～105
25 日目	21	106～109
26 日目	22	110～113
27 日目	23	114～117
28 日目	24	118～126
29 日目	まとめ問題 5	97～126
30 日目	25	127～130
31 日目	26	131～133
32 日目	27	134～138
33 日目	28	139～145
34 日目	まとめ問題 6	127～145
35 日目	29	146～151
36 日目	30	152～154

37 日目	31	155～159
38 日目	32	160～166
39 日目	まとめ問題 7	146～166
40 日目	33	167～172
41 日目	34	173～181
42 日目	まとめ問題 8	167～181

*他にも、【1】の方法で一度定着させた表現を復習する方法として、「表現」の1つ1つを（例文なしの）イラストのみの形にしたカードを用いて、フラッシュカードのようにまとめて復習する、という方法もある（1枚のカードに1つのイラストがあるもの）。その際、カードの裏に例文を書いておくとすぐに例文が確認できて効果的である。このカード（もしくはプリント）は、一度作っておくと、導入用、口頭テスト、独習用など様々な使用することができて便利である。

*最初から例文を見せずにイラストのみで導入する、イラストをカードゲームのように用いる、など、本書を使って教師のアイデアにより様々な使い方の可能性が広がると考えられる。